

春のでたらめ●桜望子

花筏結局どこにも行けなくて地元に就職するわたしたち
きみとなら結婚したいなつて思う 桜まじ花びら食べちやつた

まじかつてそんなわけないじやん私たち女同士じやん万愚説
同性を愛した人が落ちるらしい地獄のあつて春のでたらめ

いつかみんな死んじやうんだねわかつてるスーパーで買う匂の新たま
愛されるわけないじやんて 包丁でいつも切つちやう左の親指

人間のふりして作る味噌汁の綺麗に切り分けられてく豆腐

女の子はやつぱり料理が上手ねというひとに「得意なんです」と返す
子を孕む夢 目覚めれば空白のある身体だけ取り残されて

中学の頃はショートにばかりした 捨ててしまひたかつた女性性

母親の花壇は食べられる野菜ばかり植えられ 菜の花を積む

女であることをやめたいわけじやなく男になりたくもなく 桜

少しくらい女は馬鹿がいいんだつて言われてひらがなつぽくしゃべる

東京で彼氏はできた?ときかれたら笑うのが正しいこの町は

春になれば劇的に変わるわけでなくゆつくりとける雪から新芽

五つのうち四つ摘まれる林檎の花 選ばれぬことに麻痺していくつて
道路わき狸の死がいは放置され誰かが置いた菜の花ひとつ

また明日また明日つて駆けてゆくランドセルにはクマよけの鎧

わたしだけ地獄に落ちてしまうかな 春陽にぬくまつてゆく田んぼ
苦いものだらけだ春の味覚つて汚れた指を洗う井戸水